

防犯 最新線

広い山の中で「見せる防犯」 どう展開するか

第4話

日進グリーンハイツ自治会防犯委員会



住宅地をパトロールする横田さん(右)と桑原さん=岩崎町竹ノ山で

日進グリーンハイツは、頂上に御嶽山奥之院がある山の中の閑静な住宅地だ。コンサートを楽しめる山のホールのほか、ミニンの像が建つメルヘンな家がある。長久手、瀬戸市方面の景色が一望でき、遠方から人が訪れる魅力がある。

パトロールは、自治会の2人の防犯委員が、昼夜を手分けをして実施している。委員長横田秀實さん(75)は「坂が多いので車がないと生活できません人というより車とすれ違うことがほとんどですが、犬を飼う人が多く防犯に役立っている」と話し、夜は防犯灯の球切れや異変がないか注意を払っている。

ここ数年では、周辺で高級車の自動車盗や車上狙い、ひったくりがあつた話が隣近所で広がり、門灯やセンサーライトを灯す家が増えたという。

自治会が発足して23年ほどになる。会長を筆頭に副会長を置き、防災・防犯・公園愛護・環境・建築協定の各委員長のほか、組長らで組織している。加入する約140世帯の全てが、防災委員としてかわるのが、最大

の特長だ。「消火」「救出救助」「情報」「給食給水」のいずれかを担当し、訓練が定着している。

主に日中を担当する桑原光子さん(68)は「引越してきた30年前は真つ暗で、娘が不審者に出くわし怖い思いをしました。巡回中に何かあつては一人で対処できないので夫を連れてくる」と夫婦で見守っている。

古くからの近所づきあいが続く中で高齢者世帯が増え、自治会は集会所で地域のサロン「ほっとカフェ」を開き、それぞれの生活を気遣っている。一方で、若い世代の転入もあり、行事の際に紹介されて歓迎を受けている。桑原さんは「早朝の散歩では声を掛け合い、近所の皆さんがとも仲が良いことがうれしい」と強調する。

横田さんらは活動を通じて思う。「例えば他の地域で回っている青色パトロールのように『見せる防犯』を試してみることも一つ。自然に囲まれ夜は星がきれいな場所。自分たちの力で住みやすい環境を守り続けていきたい」

交通安全のシンボル 「銀の杖」日進に



高齢者を交通事故から守ろうと、愛知署管内の日進・豊明・長久手市、東郷町間をリレーでつなぐ交通安全のシンボル「銀の杖」(シルバーステッキ)がこのほど、東郷町から日進市に引き継がれました。高齢者を表すシルバーと「銀」の語呂にちなんで、愛知署の呼び掛けで昨年4月に始まったキャンペーン。11月末まで、市役所正面玄関に展示します。市役所であった引き継ぎ式では、共に市町の老人クラブ連合会長の山田典康さん(東郷) =写真左=から花井祥雄さん(日進)に杖が手渡されました。

西川幸伸署長は「皆さんの努力で事故は減っている。高齢者を交通事故から守るため杖を役立ててください」とあいさつ。萩野幸三市長は「ゼロを目指して杖をつなぎます。この活動を続けることが素晴らしい社会になることを伝えたい」と力を込めました。期間中、警察・行政・地域が連携して、米野木駅前ではキャンペーン(9月)があつたほか、民生委員児童委員による高齢者世帯訪問(10月)、にっしん市民まつりでの交通安全宣言(11月)が実施される予定です。